

2025年10月26日

東京同窓会会報「あがた」収支改善提案

(中間報告)

Ver.2.0

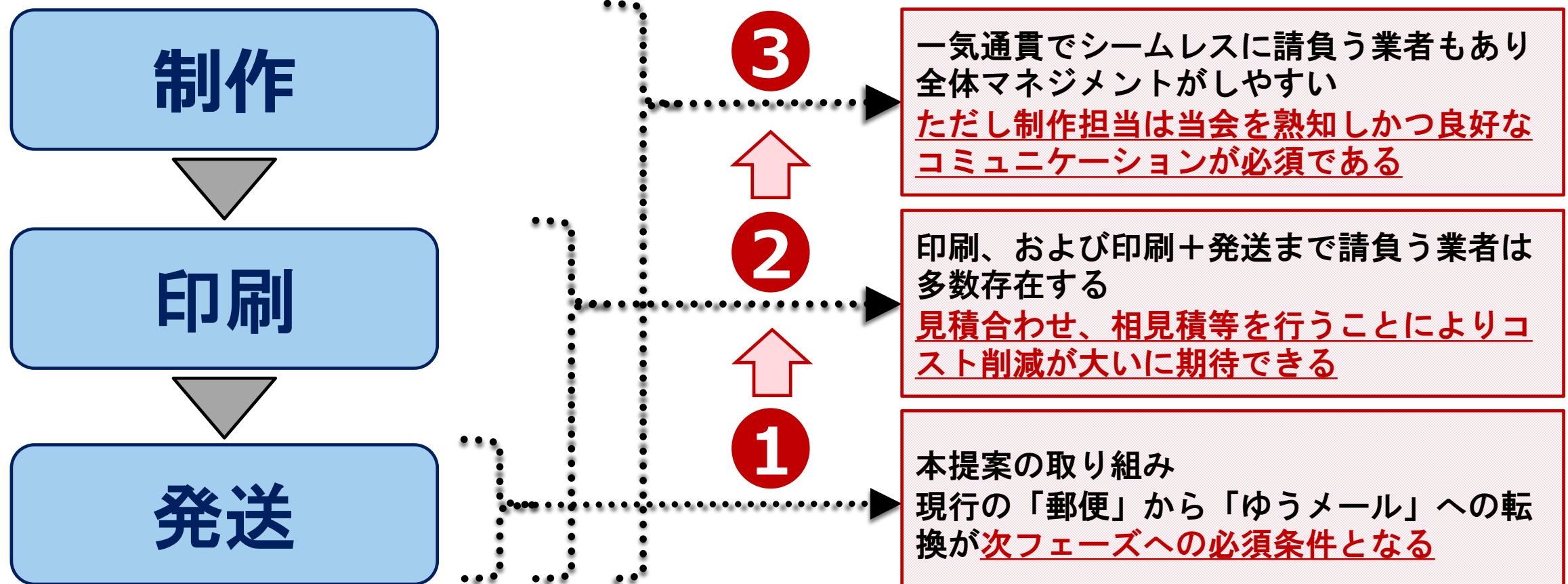
広報委員長 戸田 誠

● 前回のまとめと今後のアクション

1. 2026年より会報の送付対象を会費納入者に限定、総経費は大幅ダウンすることが予想されるが「コストダウン＝単価減」の観点からは抜本的に解決しない
 - 会員送付部数 2,400部（2025年度）⇒約800部？
2. 新たなスキーム（「ゆうメール」移行）構築のため現在の各担当業者をいったん固定し綿密な連携を行う
3. 当会⇒印刷⇒配送⇒郵政（郵便局）間との良好な関係を構築する
コミュニケーション構築には手番管理や時間も必要となる、特に郵政担当（局）の判断基準や判定期間が読みづらい
 - 判定期間を考え、従来の発刊スケジュールをおよそ3週間程度早める必要がある
 - 入校直前の最終完成版ではなく、校正段階での判定を仰ぐ
 - 最悪ダメ出しの際の代替案を準備する必要がある
 - 1回（郵便局から）OKが出ると次回は通りやすい傾向がある
4. 引き続き会報の電子化を模索する

● 前回のまとめと今後のアクション

会報「あがた」の発刊のスキームと目標（マイルストーン）



● 目標（マイルストーン） 収支概要

1 発送費の大幅削減

電算印刷およびPIN最新見積より

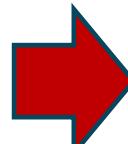
発行総数 1,000部に減
発送方法 従来通り「郵便」

発行総数 1,000部に減
発送方法 新規「ゆうメール」

| | 2025年 (R7) 47号 |
|-----|-------------------|
| 収入計 | 615,000 |
| 支出計 | 806,360 |
| 損益 | -191,360 |

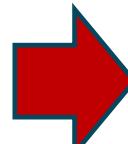
| | | |
|------|------|-------|
| 発行部数 | 個人会員 | 2,400 |
| | その他 | 280 |
| 発行総数 | | 2,680 |

| | |
|----|----------------------|
| 備考 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 |
|----|----------------------|



| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 395,520 |

※1※2



| |
|-------|
| 800 |
| 200 |
| 1,000 |

| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 316,720 |

※1※2

| |
|-------|
| 800 |
| 200 |
| 1,000 |

| |
|--------------------------|
| A4 12P チラシなし はがきなし |
|--------------------------|

| |
|--------------------------|
| A4 12P チラシなし はがきなし |
|--------------------------|

※1 制作費は会報冊子本体のみ概算

※2 印刷費は12ページ中見開きページ（5-8P）を上質紙（93.5kg）にした場合（通常は48.5kg）

● 目標（マイルストーン） 支出詳細

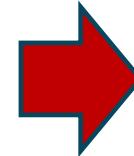
1 発送費の大幅削減

電算印刷およびPIN最新見積より

発行総数 1,000部に減
発送方法 従来通り「郵便」

発行総数 1,000部に減
発送方法 新規「ゆうメール」

| 単位 (円・税別) | | 2025年 (R7) 47号 |
|-----------|--------------|-------------------|
| 制作費 (一式) | 本体 | 75,000 |
| | チラシ | 10,000 |
| | はがき | 12,000 |
| 印刷費 (単価) | 本体 | 33.0 |
| | チラシ | 12.8 |
| | はがき | 5.6 |
| 発送費 (単価) | 発送費 | 163.6 |
| | 郵便局差出費用 (一式) | 17,000 |
| | 封入作業費 | 28.0 |
| | 資材料金 | 8.0 |



| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 80,000 |
| — |
| — |
| 67.0 |
| — |
| — |
| 163.6 |
| 12,000 |
| 24.0 |
| 8.5 |

※1

※2

※3

| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 80,000 |
| — |
| — |
| 67.0 |
| — |
| — |
| 92.0 |
| 12,000 |
| 24.0 |
| 8.5 |

※1

※2

※3

| | |
|----|---|
| 備考 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 本体 2,680部 チラシ 2,510部 はがき 2,510部 |
|----|---|

| |
|-----------|
| A4 12P |
| 本体 1,000部 |
| チラシ なし |
| はがき なし |

| |
|-----------|
| A4 12P |
| 本体 1,000部 |
| チラシ なし |
| はがき なし |

総単価 ※4

251.0+α

263.1+α

191.5+α

※1 制作費は会報冊子本体のみ概算※2 印刷費は12ページ中見開きページ（5-8P）を上質紙（93.5kg）にした場合（通常は48.5kg）※3 封入は「冊子本体」+「郵便振替用紙」※4 制作費、発送時の郵便局差出費用等を除く

ところで・・・

懸念されること

● 目標（マイルストーン） 収支概要

1 発送費の大幅削減

電算印刷およびPIN最新見積より

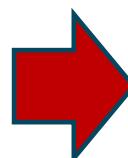
発行総数 1,000部に減
発送方法 従来通り「郵便」

発行総数 1,000部に減
発送方法 新規「ゆうメール」

| | 2025年 (R7) 47号 |
|-----|-------------------|
| 収入計 | 615,000 |
| 支出計 | 806,360 |
| 損益 | -191,360 |

| | | |
|------|------|-------|
| 発行部数 | 個人会員 | 2,400 |
| | その他 | 280 |
| 発行総数 | | 2,680 |

| | |
|----|----------------------|
| 備考 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 |
|----|----------------------|



| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 395,520 |
| ※1※2 |

| |
|-------|
| 800 |
| 200 |
| 1,000 |

| |
|--------------------------|
| A4 12P チラシなし はがきなし |
|--------------------------|

| 2026年 (R8) 48号 |
|-------------------|
| 316,720 |
| ※1※2 |

| |
|-------|
| 800 |
| 200 |
| 1,000 |

| |
|--------------------------|
| A4 12P チラシなし はがきなし |
|--------------------------|

※1 制作費は会報冊子本体のみ概算

※2 印刷費は12ページ中見開きページ（5-8P）を上質紙（93.5kg）にした場合（通常は48.5kg）

● 懸念されること

1. 広告収入

- 每年広告枠および収入は、16段×30,000円=**480,000円**を基準に考えている、結果的には例年を大きく上回る広告協賛をいただいている
- 広告主の属性精査は必要 ➡ 財政委員会に早急な属性精査をお願いしたい
例)
 - 実行委員会と同期世代有志からの出稿 (毎年この割合が最多、ただし1回限り)
 - 毎回必ず出稿していただいている
 - 過去数回出稿していただいている
 - etc.
- 次回実行委員会である48回にも期待したいところであるが、現在の活動状況を考えると大変不安である

2. 印刷部数、発送部数

- 会員向け数量は早急に目処をつけたい ➡ 事務局に早急なリスト精査をお願いしたい
- 発送方法をゆうメールに変更しても一部あたり**191.5円+a**の収支が発生する
- 会員向け以外（「愛のリレー」、本部・関西同窓会、同総連等）の印刷数量をさらに削減する

次号も滞りなく発刊できるよう皆様のご協力をお願いいたします

ご清聴ありがとうございました



Appendix

前回9月27日発表内容

2025年9月27日

東京同窓会会報「あがた」収支改善提案

(中間報告)

広報委員長 戸田 誠

● はじめに

- ◆ 本提案はあくまで現行の会報発行スキーム（制作→印刷→配送）が今後引き続き運用されることを前提としています
- ◆ ながらく俎上に上がっている会報の電子化（ネット配信、メール配信）に全面移行しない限り（ごく少数でも印刷物での配信が存在すれば）この問題は避けて通れません
- ◆ 「“0”ベースで業者選定、選定には相見積必須」とのご意見もありますが、紙媒体で配信する場合、いかなる業者に委託しても最終的にこの問題を回避することはできません
- ◆ 以上ご理解いただき進めてまいります

CONTENTS

- 現状認識
- 損益健全化へのスキーム
- ① 収入増加策（検討中）
- ② 支出削減策
- ③ まとめ
- ④ 次の課題

● 現状認識

どこに問題点があるのか考えてみましょう

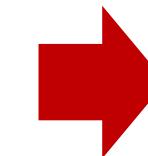
| | 2021年 (R3) 43号 | 2022年 (R4) 44号 | 2023年 (R5) 45号 | 2024年 (R6) 46号 | 2025年 (R7) 47号 |
|------|---------------------|--|----------------------|----------------------|----------------------|
| 収入計 | 570,000 | 660,000 | 480,000 | 650,000 | 615,000 |
| 支出計 | 532,483 | 576,807 | 535,571 | 754,552 | 806,360 |
| 損益 | 37,517 | 83,193 | -55,571 | -104,552 | -191,360 |
| | | | | | |
| 発行部数 | 個人会員 2,540 | 2,477 | 2,421 | 2,587 | 2,400 |
| | その他 310 | 423 | 349 | 413 | 280 |
| 発行総数 | 2,850 | 2,900 | 2,770 | 3,000 | 2,680 |
| | | | | | |
| 備考 | A4 12P チラシ両面 C2色 | A4 16P チラシ両面 C2色 他に特別面C 4P 経費57,479円有 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 | A4 16P チラシ片面 スミ1色 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 |

2023年→2024年より急激に収益が悪化している

● 現状認識

問題点をもう少し詳しく見てみましょう

| 単位 (円・税別) | | 2023年 (R5) 45号 | 2024年 (R6) 46号 | 2025年 (R7) 47号 |
|-----------|--------------|---|---|---|
| 制作費 (一式) | 本体 | 77,000 | 104,500 | 75,000 |
| | チラシ | 15,000 | 10,000 | 10,000 |
| | はがき | 12,000 | 12,000 | 12,000 |
| 印刷費 (単価) | 本体 | 32.0 | 32.0 | 33.0 |
| | チラシ | 8.6 | 6.8 | 12.8 |
| | はがき | 5.0 | 5.4 | 5.6 |
| 発送費 (単価) | 発送費 | 96.5 | 127.3 | 163.6 |
| | 郵便局差出費用 (一式) | — | 15,000 | 17,000 |
| | 封入作業費 | 発送費用に込み | 23.0 | 28.0 |
| | 資材料金 | 7.0 | 7.5 | 8.0 |
| 備考 | | A4 12P チラシ両面 スミ1色 本体 2,770部 チラシ 2,570部 はがき 2,570部 | A4 16P チラシ片面 スミ1色 本体 3,000部 チラシ 2,750部 はがき 2,750部 | A4 12P チラシ両面 スミ1色 本体 2,680部 チラシ 2,510部 はがき 2,510部 |



※発送費が急増

他項目についても諸物価高等の影響により微増

● 現状認識

なぜ収益（支出）が悪化したのでしょうか？

2024年1月31日をもってこれまで利用してきた「クロネコDM便」の取り扱いが終了したため、比較的安価な「クロネコDM便」から「郵便」に切り替えるを得なかつたため

2023年12月吉日

お客さま各位
ヤマト運輸株式会社

「クロネコDM便」取り扱い終了と
「クロネコゆうメール」発売に伴う出荷についてのご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より格段のご高配を賜り、誠にありがとうございます。
2023年6月19日に発表いたしました日本郵政グループとの持続可能な物流サービスを推進していくための協業に関する基本合意に基づき、2024年1月31日をもって「クロネコDM便」の取り扱いを終了し…

郵便法における「信書」の定義が顧客に分かりにくいにも関わらず、「信書」をメール便で送ると荷物を預かった運送業者だけではなく、送った顧客までもが罰せられることが法律に定められているため、「信書」に対して法違反の認識がない顧客が罰せられるリスクが存在していた。このリスクをこれ以上放置することが社会的責任に反する、としてメール便の廃止を決定した…

● 現状認識

そもそも「信書」とはなんでしょうか？

「信書」とは「特定の受取人に対し、差出人の意思を表示し、又は事実を通知する文書」

(郵便法第4条第2項及び民間業者による信書の発送に関する法律第2条第1項)

「特定の受取人」とは

差出人がその意思の表示又は事実の通知を受ける者として特に定めた者。

「意思を表示し、又は事実を通知する」とは

差出人の考え方や思いを表し、または現実に起こり若しくは存在する事柄等の事実を伝えること。

「文書」とは

文字、記号、符号等人の知覚によって認識することができる情報が記載された紙その他の有体物のこと。

▶ **日本郵便株式会社以外の者による「他人の信書」の送達を禁止する**

● 現状認識

「信書」に該当する文書はなんでしょうか？

■書状

■請求書の類

【類例】納品書、領収書、見積書、願書、申込書、申請書、申告書、依頼書、契約書、照会書、回答書、承諾書、△レセプト（診療報酬明細書等）、△推薦書、△注文書、△年金に関する通知書・申告書、△確定申告書、△給与支払報告書

■会議招集通知の類

【類例】結婚式等の招待状、業務を報告する文書

■許可書の類

【類例】免許証、認定書、表彰状 ※カード形状の資格の認定書などを含みます

■証明書の類

【類例】印鑑証明書、納税証明書、戸籍謄本、住民票の写し△健康保険証、△登記簿謄本、△車検証、△履歴書、△産業廃棄物管理票、△保険証券、△振込証明書、△輸出証明書、△健康診断結果通知書・消防設備点検表・調査報告書・検査成績票・商品の品質証明書その他の点検・調査・検査などの結果を通知する文書

■ダイレクトメール

- ・文書自体に受取人が記載されている文書
- ・商品の購入等利用関係、契約関係等特定の受取人に差し出す

- 実際は「信書」の定義が曖昧で利用者が明確な区別がつかず混乱している
- 郵便局の現場でも即答せず、局や担当者の判断に委ねているのが現状

● 現状認識

会報「あがた」で信書性が疑われる書類はどれでしょう？

※PIN村越氏の知見による

- | | | |
|---------------------|---|---|
| A)会報本体 | → | △ |
| B)《同封》総会・懇親会開催案内チラシ | → | △ |
| C)《同封》総会・懇親会出欠確認はがき | → | × |
| D)《同封》郵便振替用紙 | → | ○ |

- 損益健全化へのスキーム
- ② 支出削減策

発送方法を「郵送（郵便）」から「ゆうメール」へ変更する

- 「郵便」 ⇒ 信書「○」
- 「ゆうメール」 ⇔ 信書「×」

2025年9月現在の価格（税込：PIN見積より）

| | |
|------------------------|---------|
| ● 郵送料金（定形外100g以内） | @180.0円 |
| ● ゆうメール料金（A4サイズ100g以内） | @101.2円 |

※封入作業料金、郵便局差出費用、資材料金を除く

● 損益健全化へのスキーム

② 支出削減策

発送方法を「ゆうメール」へ変更する（「信書性」を回避する）方法①

※PIN村越氏の知見および生成AI Copilotなどより

A)会報本体 判定 △

- 冊子中身（誌面）のチェックは行わず表紙・裏表紙のチェックのみとなり、特に表紙の「信書性」を排除すればかなりの確率で「信書性」表現を回避することが可能
- 冊子の場合、表紙タイトルに一目で会報誌であることがわかる次の文言を表記することでさらに「信書性」を薄める効果があることを確認している
 - ☆タイトルに『会報 ○○号』と表記する
- コンテンツに、チラシの代替として総会・懇親会案内を掲載する場合は細心の注意をする

● 損益健全化へのスキーム

② 支出削減策

発送方法を「ゆうメール」へ変更する（「信書性」を回避する）方法②

※PIN村越氏の知見および生成AI Copilotなどより

B)《同封》総会・懇親会開催案内チラシ 判定 △

- 「信書性」を回避できる可能性は高いが、郵政側（担当）がどう判定するかは微妙
- チラシとした場合校正段階から「信書性」をチェックする煩雑さから会報本体内に中綴じした形が無難
 - ただし文言には細心の注意が必要。詳細情報はWEBやSNSに誘導する
例）「詳細は同窓会HPをご覧ください」「出欠はWEBフォームから」等
- 会報本体内（見開きページ）に同種コンテンツがあり、廃止しても問題はない
- 47号等の例でコンテンツ増加時（広告、会費振込要領、等の情報）の逃げ場としての機能を持たせられない

● 損益健全化へのスキーム

② 支出削減策

発送方法を「ゆうメール」へ変更する（「信書性」を回避する）方法③

※PIN村越氏の知見および生成AI Copilotなどより

C)《同封》総会・懇親会出欠確認はがき 判定 ×

- 高い確率でNGになる
- チラシと同様に会報本体内の中綴じで、【切り取り式のはがき形式】で「申し込みはがき」を掲載することで「信書性」確認の対象外とすることが可能か

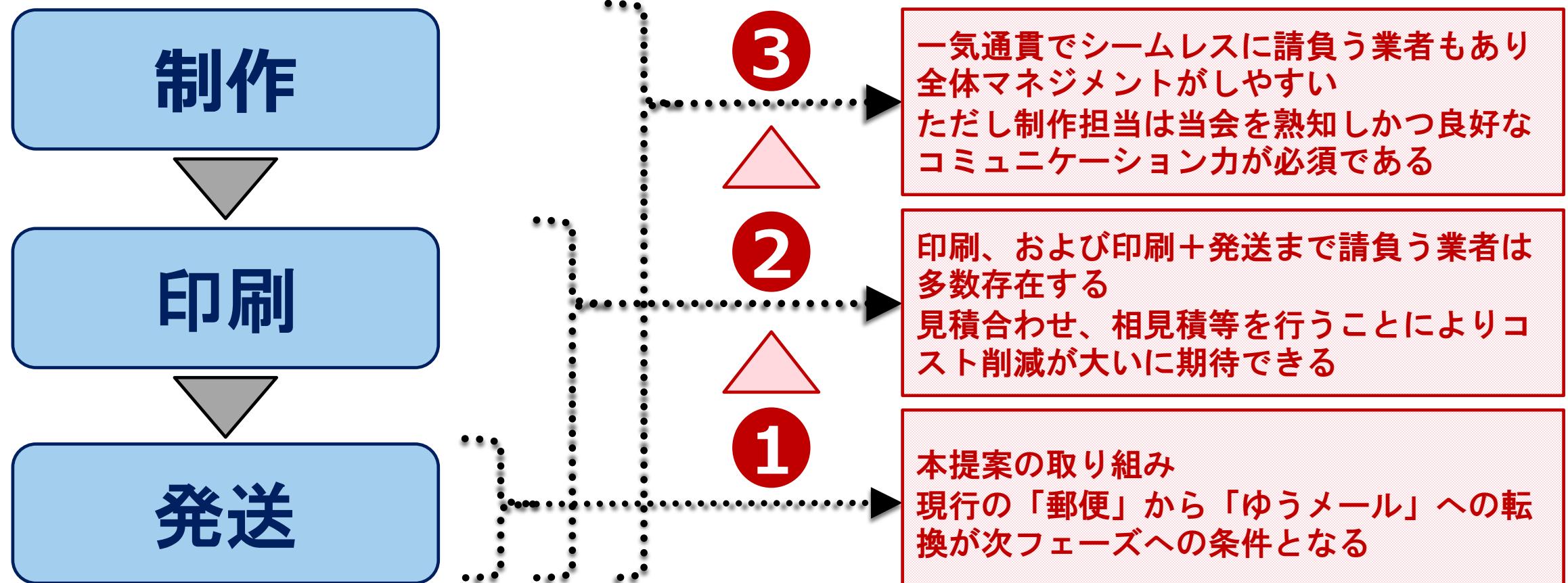
D)《同封》郵便振替用紙 判定 ○

- 特に問題なし

● 損益健全化へのスキーム

④ 次の課題（案）

会報「あがた」の発刊のスキームと優先順位付け



● 損益健全化へのスキーム ③ まとめ・今後のアクション

1. 2026年より会報の送付対象を会費納入者に限定、総経費は大幅ダウンすることが予想されるが「コストダウン＝単価減」の観点からは抜本的に解決しない
 - 会員送付部数 2,400部（2025年度）⇒約800部？
2. 現在の各担当業者をいったん固定し新たなスキーム（「ゆうメール」移行）構築のため綿密な連携を行う
3. 当会↔配送（PIN）↔郵政（郵便局）間との良好な関係を構築する
コミュニケーション構築には手番管理や時間も必要となる、特に郵政担当（局）の判断基準や判定期間が読みづらい
 - 判定期間を考え、従来の発刊スケジュールをおよそ3週間程度早める必要がある
 - 入校直前の最終完成版ではなく、校正段階での判定を仰ぐ
 - 最悪ダメ出しの際の代替案を準備する必要がある
 - 1回（郵便局から）OKが出ると次回は通りやすい傾向がある
4. 引き続き会報の電子化を模索する



Appendix

● 損益健全化へのスキーム

① 収入増加策（案）

◆ 広告料の値上げ

➤ 一律20%のUP

- 10,000円枠 ⇒ 12,000円
- 15,000円枠 ⇒ 18,000円
- 20,000円枠 ⇒ 24,000円
- 30,000円枠 ⇒ 36,000円

単純に現在の基本枠収入（16段分）が480,000円から576,000円となる
しかし

発行部数が激減するにも関わらず値上げはクライアントは受忍できないであろう

◆ インセンティブの付与

➤ 現在の「縣陵コネクション」を廃止し縣陵tokyo-netに広告を掲載する

- 希望者限定
- 期間は1年間
- 広告作成・掲載料は無料



ご清聴ありがとうございました